

Media Release

シンジェンタ、2005年第3四半期業績

スイス・バーゼル市、2004年10月21日発

英文リリース日本語訳
平成17年10月27日

2005年第3四半期の売上は、昨年同期より2%増加して13億9千万ドル(約1,562億円)に達しました(昨年同期は13億6千万ドル)。恒常為替レートでは、1%の増加でした。今年9月までの売上は、恒常為替レートでは11%増加して68億ドルでしたが、これには2004年第3四半期に初めて統合し、売上が4%増加した米国の種子会社の買収による増加分は含まれていません。

農薬部門の売上は、恒常為替レートで1%増加しました。新製品の売上は、好調なカリストとアクタラ/クルーザーによって39%増加しました。今年9月までの新製品全体の売上は、6億9千4百万ドルに達しました。NAFTA(北大西洋自由貿易地域)における売上は、今年上半期ほどは振るいませんでしたが、引き続き好調に推移しました。ヨーロッパ、アフリカおよび中東地域においては、西ヨーロッパでの売上が減少し、東ヨーロッパで続いた二桁の成長によってもこれを埋め合わせる事ができませんでした。ラテンアメリカにおける売上は、ブラジルでのシーズン前の販売開始が幸いしました。アジア太平洋地域においては、中国、インドおよび日本の顕著な貢献により、安定した業績を維持しました。全製品群において売上が増加しましたが、例外的に米国での流通在庫の引き締めにより殺菌剤の売上が低迷しました。殺虫剤は、NAFTAとブラジルにおける成功により売上が大きく増加しました。プロフェッショナル・プロダクトは、特に種子処理剤が好調で、再び堅調な伸びを示しました。

種子部門の売上は、恒常為替レートで5%増加しました。ヨーロッパでは、野菜用種子がシーズンに向けて出足が遅れたにもかかわらず売上が回復し、花卉における売上の低迷を埋め合わせる事ができました。畑作物用種子では、トウモロコシと大豆のフランチャイズ販売が、市況が好転したラテンアメリカでの好調な業績によりさらに強化されました。

2005年通年の売上は、このまま順調に推移し一株当たりの利益は目標である10%台後半を達成すると思われます。シンジェンタは、2006年に向けてこの目標を達成することを引き続きお約束いたします。

シンジェンタは、革新的な研究と技術とにより持続可能な農業を約束する、世界のアグリビジネスをリードする企業です。農薬の分野では世界第2位、高付加価値種子の分野では、世界第3位にランクされています。2004年度の売上高は約73億ドル(約7,888億円)、世界90カ国以上で事業を展開し、約20,000人の従業員を擁しています。シンジェンタは、スイスおよびニューヨークの株式市場に上場しています。さらに詳しい情報は、インターネットwww.syngenta.com (英語)または、www.syngenta.co.jp (日本語)をご覧ください。

この件に関するお問い合わせ先
シンジェンタ ジャパン株式会社
人事・広報部 大塚 真理子
電話 03-6221-1001 ファクシミリ 03-6221-1052